

〔古事記上〕故爾各中置天安河而宇氣布時天照大御神先乞度建速須佐之男命所佩十拳劍打折三段而奴那登母母由良爾此八字以音下效此振滌天之真名井而佐賀美爾迦美而自佐下六字於吹棄氣吹之狹霧所成神御名多紀理昆賣命此以音名亦御名謂奧津島比賣命次市寸島上比賣命亦御名謂狹依毘賣命次多岐都比賣命名以音速須佐之男命乞度天照大御神所纏左御美豆良八尺匂穗之五百津之美須麻流珠而奴那登母母由良爾振滌天之真名井而佐賀美邇迦美而於吹棄氣吹之狹霧所成神御名正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命略○下

〔古事記傳七〕天之真名井書紀一書に天渟名井ともあるを合せて思ふに真渟名井を約たる奴を切て那名にて真は美稱眞水を云など云る説例のいとうるさし渟は凡て水の湛たる所を云沼同じ名は借字にて之なり之を那と云されば此はたゞ井を美て云る稱にて一つの井の名には非ず故書紀に掘天眞名井三處とも有ぞかし又此井は即安河瀬の中にて井と云べき所を指て云るにて別に尋常云井ありしには非ず書紀に此井を云る傳には此井を云ざるもの此故に河を云へず河を始に中置天安河と云おきて今此に如此言は別に非ること明けし凡て古は泉にまれ川にまれ用る水に汲處を井と云りさて丹後國丹波郡比沼麻奈爲神社出雲國意宇郡真名井神社あり官帳に見ゆ

〔類聚名物考 地理三十五〕板井 いたる

井筒を板にて作りし四方の井をいふ筒井の丸きを對て知べし石井は石のかわなり

〔萬葉集七〕詠井

安志妣アシヒ成榮之君ナルサカエシキ穿之井之石井之水者雖飲不飽鴨ガホリシキハノドアカヌカセ

〔類聚名物考 地理三十五〕石井筒 いしゐづ、

筒井の丸きかはを石にて作れるなり今もこの物富貴の家には多く作れり

〔類聚名物考 地理三十五〕筒井 つ、ゐ